

1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- 基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力をバランスよく高める。(平成29年度目標・指標)
- ◆全国学力調査の全領域で全国との差を5P以内にする。
- ◆各単元テストの学級平均を期待値以上にする。

3. 指標にむけての取組

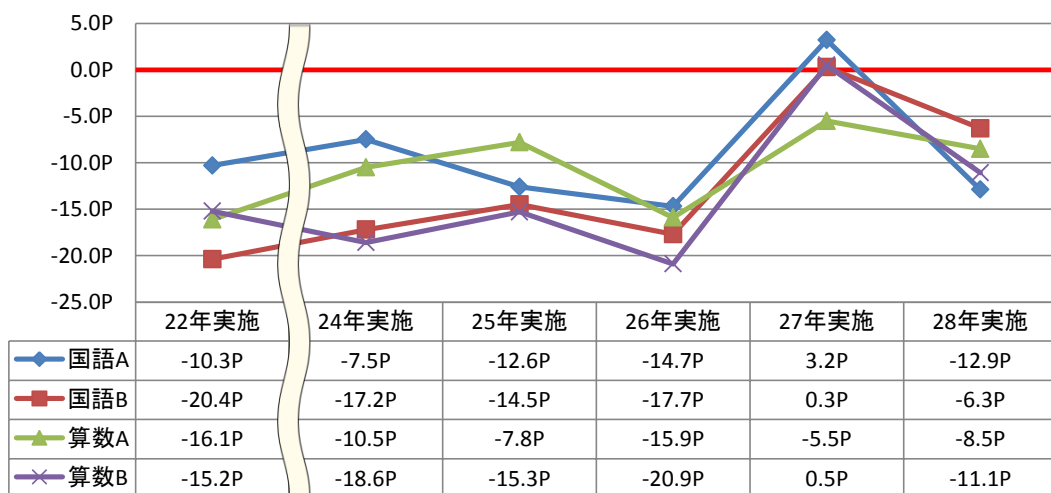
- ◇アクティブラーニングを取り入れた授業を充実させ、教科の特質に応じたクリティカルシンキングを活性する。
- ◇繰り返しの指導を徹底し、基礎的な内容の定着を図る。
- ◇習熟度別分割授業を計画的に実施し、習熟度に応じた授業展開を工夫する。

4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	算数A	算数B
本校(A)	60.0	51.5	69.1	36.1
嘉麻市(B)	65.3	51.6	72.8	41.9
(A) - (B)	-5.3	-0.1	-3.7	-5.8
福岡県(C)	71.7	57.8	77.8	47.3
(A) - (C)	-11.7	-6.3	-8.7	-11.2
全国(D)	72.9	57.8	77.6	47.2
(A) - (D)	-12.9	-6.3	-8.5	-11.1

全国平均との差異



5. 各学校における分析

- ◇国語Aでは、ローマ字及び漢字の「読み・書き」に課題があった。また、国語Bでは、「目的に応じて質問したり、質問の意図を考える力」が弱かった。さらには、書く内容を目的に沿って書くこと（条件が満たされない等）が不十分であった。
- ◇算数Aでは、「三角形の底辺と高さとの関係」「直方体における面と面の位置関係」「数の大小関係」「割合」に課題があった。また、算数Bでは、「示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求める。」「示された乗法や除法の意味を解釈する。」等、示された考え方を活用し問題を解くことに課題が見られた。しかし、昨年度課題のあった「除数と被除数、商との関係」「末尾の位がそっていない少数の加法の計算」等、改善が見られた。
- ◇生活習慣については、「テレビやビデオ、メールやインターネットを2時間以上する割合」が全国に比べ2倍以上ある。また、「学校の決まりを守る」等の規範意識に関する定着が全国に比べ大変低い。反面、「朝食を毎日食べる」「宿題をする」等の項目は、全国より高く、これまでの地道な取り組みが成果として表れてきている。

6. 各学校における今後の取組

- ◇国語科に関しては、ローマ字学習後の取り組みが徹底していなかった。そこで、年間を通して定期的にローマ字の学習を想起させる時間を設けていく。また、相手を意識した交流活動や目的に応じて必要な事柄を読み取ったり書いたりする等の言語活動の充実を校内研究とリンクさせ改善を図る。
- ◇算数科に関しては、課題が大きかった単元を重要単元とし、指導方法・指導形態の工夫を図るとともに、週末課題を通して繰り返し学習の徹底を図っていく。また、示された式や考え方を理解し、その方法を用いて、課題を解く等の授業の充実を図る。さらには、自分の考えをノートにまとめる等、自分の考えを表現する時間を授業の中に位置付けるなど、授業改善を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
 - ・効果のあった授業モデルを提示する。
 - ・学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
 - ・個に応じた指導、特に個のつまづきの把握と速やかな対応を可能にするための指導方法の工夫改善を実施する。
 - ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく実践等の情報提供を行う。